

平成27年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成28年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等	
4. 5 < X	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. 5 < X ≤ 4. 5	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. 5 < X ≤ 3. 5	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. 5 < X ≤ 2. 5	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1. 5	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

公立大学法人広島市立大学 平成 27 年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

平成 27 年度は第 1 期中期計画期間の最終年度に当たり、当期で企画した改革事項を仕上げるとともに、時代と状況の推移を見定めて、次期で取り組むべき内容について全学を挙げて構想を深めてきている。実は、このような意識への転換は、期の後半に差し掛かった平成 25 年度から開始され、大項目では平成 26 年度既に全項目 A を達成していて、今年度も特別の事情があった一項目を除き、全て A 評価となっている。このような努力を継続できた背景には、教育機関である大学にとって最も気掛かりな、受験生の応募倍率と卒業生の就職率が、常に好調な数値を示していたことがあると考えられる。

広島市立大学の特徴は、国際、情報、芸術、それに平和を主題とするユニークな組織構成を反映したリベラルアーツ教育にある。どの学部を入口として入学したとしても、その専門性をいかした幅の広さと^{たくま}逞しさを育成する機会が縦横に配置され整備されている。例えば、「いちだい知のトライアスロン」事業・「CALL 英語集中」及び「e ラーニング英語」・「HIROSHIMA and PEACE」等の特徴ある教育メニュー、ラーニングcommons・フォトスタジオ・芸術資料館等の学習環境の整備や学生会館のリニューアル、「有給長期インターンシップ」モデル事業・「市大生チャレンジ事業」・国際交流事業・地域芸術活動等学外活動への参加、等があり、市大生の知的経験を自主的に拡大していく装置が整備されてきた。市大生は、教員が中心に展開する各種公開講座・社会連携センター等にも関わる機会があり、さらには市の基本戦略である「広島広域都市圏」を活動地域とする「観光振興による『海の国際文化生活圏』創生に向けた人材育成事業」が文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」で採択され、その活動にも加わる機会がある。

評価委員会は、教職員と市が一体となって整備してきたこれらの真摯な取組を高く評価する一方で、そこに安住することなく、貴学が将来社会の^{すう}趨勢である知識基盤社会で活躍できる高度な実務的人材の育成機関に進化していくことを期待している。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

全体評価（評点）

大項目名	評価の記号 (大項目評価)	※1 評点 (α)	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$	評価の記号 (全体評価)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育	A	4	20%	0.8	
2 学生への支援	A	4	10%	0.4	
3 研究	A	4	15%	0.6	
4 社会貢献	A	4	15%	0.6	
5 国際交流	A	4	10%	0.4	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	C	3	15%	0.45	
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	---				
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	A				
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
計				※2 3.85	A

※1 「評点」は「評価の記号（大項目評価）」と連動する。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※2 「全体評価の記号」はこの数値（ $\alpha \times \beta$ の計）と連動する。

全体評価の記号	S	A	B	C	D
$\alpha \times \beta$ の計(=X)	$4.5 < X$	$3.5 < X \leq 4.5$	$2.5 < X \leq 3.5$	$1.5 < X \leq 2.5$	$X \leq 1.5$

項目別評価（総括表）

評価項目	評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	A
(1) 教育内容の充実	
ア 全学共通教育	A
イ 特色ある教育	A
ウ 学部専門教育	B
エ 大学院教育	A
(2) 教育方法の改善	
ア 授業内容及び授業方法の改善	A
イ 学習環境及び学習支援体制の整備	A
ウ 成績評価システムの整備	-
(3) 積極的な広報と学生の確保	
ア 積極的な広報	-
イ 学生の確保	B
(4) 教育実施体制の整備	
ア 教職員の配置等	-
イ 教育環境の整備	A
ウ 芸術情報の利用環境の整備	B
2 学生への支援	A
(1) 学習支援	-
(2) 日常生活支援	A
(3) 健康の保持増進支援	-
(4) 就職支援	A
(5) 課外活動支援	-
(6) 経済的支援	-
(7) 留学生支援	A
3 研究	A
(1) 研究活動の活性化と成果の普及	
ア 研究活動の活性化	A

評価項目	評価の記号
イ 研究成果の普及及び還元	A
(2) 研究体制の強化	B
4 社会貢献	A
(1) 生涯学習ニーズへの対応	A
(2) 「産学公民」連携の推進	
ア 地域産業界との連携	A
イ 国、地方自治体等との連携	S
ウ 学術機関及び研究機関との連携	A
エ 小中高等学校等との連携	A
(3) 社会連携センターの機能の充実	
ア 社会連携センターの体制整備	-
イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
ウ 研究成果、学内資源等の活用	B
エ 学生の育成	B
5 国際交流	A
(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	A
(2) 留学生への支援体制の充実	-
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	C
1 運営体制	-
2 人事	-
3 事務処理	C
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 自己収入の増加	A
2 管理経費の抑制	A
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	-
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	A
1 施設及び設備の適切な維持管理等	A
2 安全で良好な教育研究環境の確保	B

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育(大項目)		<p>大項目評価</p> <p>第 1 期中期計画に掲げる重点取組項目である「全学共通教育の充実」をはじめとして、教育に関する様々な取組を実施した。</p> <p>全学共通教育においては、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を引き続き実施し、多数の学生が参加した。当事業の継続実施により、学生への図書貸出冊数の着実な増加につながった。「CALL 英語集中」については、継続的な改善に取り組み、システム改修等により学習効果の向上を図った。</p> <p>夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」については、事前研修を改善するとともに、被爆 70 周年という節目の年の開催になることを踏まえ、平和首長会議の活動等、広島市の平和に対する取組についての講義を充実させた。</p> <p>学部・大学院教育においては、内容の更なる充実に向け、国際学部では海外短期特別研修の実施や基礎演習等の見直しを行い、情報科学研究科では語学力及びコミュニケーション能力向上のための集中英語研修の開催や医用情報科学専攻の発足に向けた教育研究環境の整備に取り組み、芸術学研究科では文化財保存修復現場における実践的な講義等により、文化財保存学特講の充実を図った。</p> <p>授業アンケートや授業改善等に関する研修会 (FD 研修会) の実施により、授業内容及び授業方法の改善に取り組み、教育の質の向上を図った。</p> <p>教育環境の更なる向上を図るため、語学センターや情報処理センター等の設備改修を行うとともに、設備等の共同利用やラーニングコモンズを活用した各種イベントの開催等により、学習支援の充実に取り組んだ。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	〔評価理由〕 教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
(1) 教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総	(1) 教育内容の充実 ア 全学共通教育(小項目) (7) 自律的学習能力やコミ	○科目「基礎演習」の総	<p>小項目評価</p> <p>○平成 28 年度の「基礎演習」の実施に向け、平成 28 年 2 月に「基</p>	a	〔評価理由〕 全学共通教育について優れた	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>合的な判断力を培い、豊かな人間性かん養するとともに、グローバル化や情報化の進展等時代の潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。</p>	<p>コミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。</p> <p>(イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施する。</p> <p>(ロ) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。</p> <p>(エ) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>括及び次期中期計画を見据えたあり方の検討</p> <p>○「いちだい知のトライアスロン」事業の実施及び総括</p> <p>○アンケート調査の結果に基づく新テキストの選定</p> <p>○「CALL 英語集中」の検証、改善</p> <p>○情報科学部において実施する「eラーニング英語」の検証、改善</p>	<p>礎演習」担当者等へのアンケートを実施し、総括の上、科目の更なる充実に向けた資料を作成するとともに、第2期中期計画期間中に導入する予定の3学部合同ゼミと併せて、当該科目の在り方について検討を進めていくこととした。</p> <p>○学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業(平成22年度創設)を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～：基礎演習と連携して「スタートアップコース」を実施 ・10月～：教養演習と連携して「チャレンジコース」を実施 ・教員の推薦図書・映画や関連する資料等を紹介する「知のトライアスロンコーナー」に、教養演習受講者のためのサポートコーナー(推薦図書の設置や読書推進のためのQ&Aの掲示及び展覧会の情報提供等)を新設 ・附属図書館において、図書展示(知のトライアスロンテーマ別展示6回、出張講座関連展示3回)を実施 ・広島市内の大型書店において、学生によるブックハンティングを実施(全2回) ・芸術資料館、広島市映像文化ライブラリー及び広島市現代美術館において、教員の解説を聞いて作品を鑑賞する出張講座を開催(全4回) ・語学センターにおいて、映画の連続上映会を実施(全14回) <p>【参加学生数等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアスロン参加学生数：430名(スタートアップコース424名、チャレンジコース6名) (平成26年度：425名(スタートアップコース424名、チャレンジコース1名)) ・感想レポート数：623件(平成26年度：666件) ・出張講座参加学生数：124名(平成26年度：160名) ・語学センター映画上映会参加学生数：169名(平成26年度：190名) ・学生への図書貸出数：25,076冊(平成26年度：24,957冊) <p>また、第2期中期計画を見据えて、学生の更なる参加を促すため、個別の取組の在り方などについて具体的な検討を行った。</p> <p>○「CALL 英語集中」及び「eラーニング英語」について、学習効果</p>		<p>取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>[コメント]</p> <p>○充実した取組をしている。その一方で、学生のチャレンジが今一つのようにも感じる。精神主義ではなく、高度な知的興味を呼び覚ますなど、学生たちを引き込む入口の設計に工夫が欲しい。</p>	

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。	<p><u>イ 特色ある教育（小項目）</u></p> <p>(7) 平和に関する教育を推進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積極的に参画する。</p> <p>(i) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。</p> <p>b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実</p>	<p>○平和研究所教員の全学平和関連講義等への参画及び総括</p> <p>○カリキュラム内容等に関するアンケート調査の実施</p> <p>○アンケート結果等を踏まえたカリキュラム内容等の充実及び総括</p> <p>○異文化に触れることができる行事の学生への情報提供及び総括</p> <p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会や公開講座、ワークショップ</p>	<p>の更なる向上を目的として、課題の出題方法を変更する等のシステム改善を行った。これまでは、誤答であった課題について、直後に 1 回再挑戦すれば、正答・誤答にかかわらず次の課題に進めるシステムとなっていたため、問題をきちんと読んだり聞いたりしない不適切な学習が見受けられた。そのため、誤答であった課題について、正解するまで後から何度でも繰り返し出題される形に改善したことにより、1 問 1 問で丁寧な学習が行われ、平均正解率の向上につながった。</p> <p>以上のように、全学共通教育の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○平和に関する教育を推進するため、全学共通系科目である広島・平和科目 5 科目のうち、4 科目を広島平和研究所の教員 6 名が担当した。また、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」に、同研究所の教員 2 名が参加した。第 1 期中期計画期間を通じて教育への参画に取り組み、同研究所の研究成果の還元について着実に成果を挙げている。</p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の受講生 36 名に対してアンケート調査を実施し、ほぼ全員から高い満足度の評価が得られた。特に、平和に関して多面的な学習ができたこと、被爆者講話を取り入れたことや、国家という枠組みを越えた交流・議論ができたことに対する評価が高かった。また、平成 26 年度のアンケート調査結果等を踏まえ、次のような改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容や教員特性を踏まえて教員配置の適正化を行うとともに、本学学生の英語能力の向上を目的に事前研修を充実し、英語による講義の理解能力やディスカッション能力の強化を図った。 ・被爆 70 周年という節目の年の開催となることを踏まえ、平和首長会議の活動等、広島市の平和に対する取組についての講義を充実させた。 ・新たな視点からの講義を取り入れるため、立命館大学及びアメリカン大学（アメリカ）との合同講義を導入した。 ・事務作業のマニュアル作成や臨時職員の雇用期間の見直しなどにより、運営の一層の効率化に取り組んだ。 <p>さらに、広島市及び公益財団法人広島平和文化センターとの連携により、平成 28 年度から、平和首長会議加盟都市からの参加者</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>特色ある教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○広島市立大学の特色でもある平和教育への取組は良好であり評価できる。</p> <p>○少人数のリベラルアーツ的側面の推進などについて評価できる。</p> <p>○広島市立大学でしかできない特色ある講義を実施し、聴講生から高い評価を得ている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。	<p>を図る。</p> <p>ウ 学部専門教育（小項目）</p> <p>(7) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>b 情報科学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等について学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p> <p>c 芸術学部では、芸術の持</p>	<p>プ等の開催</p> <p>○学生・教員に対するアンケート調査等の実施及び教育内容の充実に向けた検討</p> <p>○学科配属に関するアンケート調査の実施</p> <p>○学科一括募集及び学科配属方法等の総括</p> <p>○卒業生が就職した企業等に対するヒアリング、アンケート調査の実施</p> <p>○ヒアリング、アンケートの分析結果等を踏まえた教育活動の改善及び総括</p>	<p>の旅費・滞在費等を補助する新たな制度を導入することとした。</p> <p>○学生が国際機関や国際的 NGO 等で活躍する人材と交流する機会として、国際的に活躍する者を講師として迎え、講演会や公開講座等を 8 回（平成 26 年度：8 回）開催した。</p> <p>以上のように、特色ある教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり国際学部及び情報科学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学部では、学生・教員に対するアンケート調査を実施するとともに、これまでの数年にわたるアンケート調査の結果に基づき、教育内容の一層の充実に向けた検討を行った。</p> <p>その結果、学部教育の更なる質の向上と国際化の推進のため、平成 28 年度からオルレアン大学（フランス）への短期特別研修を新たに実施することとした。また、海外学術交流協定の締結を見据え、フインガーテン教育大学（ドイツ）と覚書を締結し、同年度から試験的に学生交換プログラムを実施することとした。</p> <p>加えて、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「発展演習Ⅰ・Ⅱ」のそれぞれのテーマを明確化するとともに、研究発表会の新規実施とそれに向けたグループ研究の導入など、平成 28 年度からの科目内容の見直しを行った。</p> <p>②情報科学部では、学部 1 年生及び 2 年生に対し、4 学科一括募集及び学科配属に関するアンケート調査を実施した。多くの学生は現在の方法が良いと回答した。4 学科一括募集や平成 25 年度から実施した 2 年次前期の学科配属について、アンケートにより高評価が得られていることなどから、妥当な募集方法・配属方法であることが裏付けられた。</p> <p>また、企業へのヒアリング調査の結果を基に、情報科学部独自の取組として、平成 26 年度に引き続き保護者向けの進路説明会を、学部 1 年生（入学時）の保護者に加え、学部 3 年生・大学院博士前期課程 1 年生の保護者にも実施（6 月 28 日開催）した。さらに、実践的な語学力及びコミュニケーション能力を養成するため、外部講師による集中英語研修を実施した（学部 4 年生及び大学院博士前期課程 1 年生対象コース、学部 3 年生対</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明確に示すため、「平和学」の構築を実現する。</p>	<p>つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p> <p>エ 大学院教育（小項目）</p> <p>(7) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学研究科では、専門基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p>	<p>○医用情報科学専攻の発足に向けたカリキュラム及び教育研究環境の整備</p> <p>○プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化のための教育内容の評価、改善</p>	<p>象コース)。第 1 期中期計画期間を通じて「PDCA」サイクルによる教育活動の改善に取り組み、学部独自事業の実施等に成果を挙げた。</p> <p>以上のように、学部専門教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、以下のとおり大学院教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①情報科学研究科では、以下のとおり、医用情報科学専攻の発足に向けた取組を行った。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 4 月に、教授 2 名（バイオ情報学研究室、医用情報通信研究室）、助教 1 名（医用ロボット研究室）を新たに採用した。また、社会連携センターから准教授 1 名（バイオ情報学研究室）、他専攻から講師 1 名（医用ロボット研究室）を補充した。さらに、平成 28 年度に向けて助教 2 名（バイオ情報学研究室、医用情報通信研究室）の採用人事を行い、医用情報科学専攻の教育体制の整備を着実に進めた。 医用情報科学専攻担当予定教員による会議を毎月 1 回以上開催し、専攻発足の準備等について協議した。 医用情報科学専攻の教育研究環境整備として、医用情報に関する計測解析信号処理基盤設備、ものづくり基盤設備、モデリング・シミュレーション基盤設備を整えた。また、医用情報科学専攻の共同研究利用施設を情報科学部棟別館に整備し、小型 MRI 装置等を設置した。 医用情報科学専攻の発足に対応して、医用情報科学科のカリキュラムの見直し・体系化を図り、平成 28 年度から 7 科目を新設し、12 科目の科目名・履修時期を変更することとした。 創造科学専攻から医用情報科学専攻への専攻名称変更届一式（教育課程等を含む。）を文部科学省に提出するとともに、医用情報科学専攻における学生募集要項を検討し、平成 29 年度以降の入学生に対して学力記述試験を課すことを決定 	a	<p>【評価理由】</p> <p>大学院教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 教育方法の改善 各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。	<p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(7) 全学的な協体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究科が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p>	<p>○「文化財保存学特講」の実施及び授業内容の充実</p> <p>○「平和学」の教育研究体制の更なる充実に向けた検討</p>	<p>した。</p> <p>・医用情報科学科・医用情報科学専攻のオリジナルウェブサイトを開設した。</p> <p>②芸術学研究科では、文化財保存修復の理論や技術を学ぶ「文化財保存学特講B」を、7月～9月に集中講義として実施した。漆工、金工、油絵の保存修復に加え、吉備国際大学文化財総合研究センターとの連携により、現代美術の保存修復及び文化財の非破壊調査に関する授業を取り入れた。また、情報科学研究科の教員による3Dレーザー計測についての指導や、金刀比羅宮(香川県琴平町)の文化財や境内の見学とそれらに関する講義などを行った。</p> <p>③国際学研究科及び広島平和研究所では、「平和学」の教育研究体制の更なる充実に向け、平成26年度に引き続きブラッドフォード大学(イギリス)との交流を企画し、同大学のデービッド・フランシス平和学研究科長を招聘して特別講義を実施した。また、平和学研究科の新設に向けた作業部会を設置し、設置科目等に関する検討を行った。</p> <p>以上のように、専門分野において優れた研究能力と実践的な技能を身に付けた学生の育成を図るための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、7月～9月(前期)及び1月～2月(後期)に学生及び教員に対し授業アンケートを実施した。第1期中期計画期間を通じて授業アンケートを継続実施し、授業内容及び授業方法の改善に取り組み、教育の質の向上を図った。</p> <p>○授業改善や教育活動等に関する研修会を開催するとともに、研修会参加者に対し、アンケート調査を実施した。また、学部等の独自企画による研修の実施を奨励しながら、参加者の増加及び研修の効果向上に努めた。</p> <p>以上のように、授業内容及び授業方法の改善のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>授業内容及び授業方法の改善について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○「いちだいい知のトリアスロン」事業における本学教員の出張講</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学習環境及び学習支援体制を</p>	A
また、学生が自主的かつ主体的に学習	<p>イ 学習環境及び学習支援体制の整備(小項目)</p> <p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等のFD活動(Faculty Development: 教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。)を積極的に行う。</p>	<p>○学生・教員に対する授業アンケートの実施及び総括</p> <p>○授業改善に関する研修会(FD研修会)の開催</p>				

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整備する。</p> <p>さらに、授業科目の到達目標と成績評価基準を明示するとともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。</p>	<p>(7) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。</p> <p>(4) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。</p> <p>(9) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。</p> <p>ウ 成績評価システムの整備 (小項目)</p> <p>(7) 成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。</p> <p>(4) 芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、課題制作作品や入選入賞作品</p>	<p>○教育研究活動のデジタルアーカイブ化及び総括</p> <p>○自習室等のパブリックスペースの整備</p> <p>○ラーニング commons の効果的な利活用と学生の学修支援体制の充実</p>	<p>座等の動画を学内向けウェブサイトへ掲載し、時間、場所を選ばず学習できる機会を提供した。費用や労力等も考慮しつつ、第 1 期中期計画期間を通じて教育研究活動のデジタルアーカイブ化に取り組んだ。</p> <p>○教育環境の更なる向上を図るため、語学センター、情報科学部棟及び情報処理センターの設備の充実に取り組み、学生の学習環境を整備した。また、学生食堂を営業時間外に学生に開放しているが、什器を更新したことにより利便性が向上し、自習や課外活動の場としての活用が促進されている。</p> <p>○平成 26 年度に整備したラーニング commons については、学生の日常的なグループ学習等での利用のほか、講義、ゼミ、スピーチ大会等授業での利用、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」、インターンシップ報告会や国際映画祭に関連したトークイベントの開催等、施設の特長を生かして多種多様な利活用を行った (1 日の平均入室者数 (延べ人数) は約 250 名)。</p> <p>また、ラーニング commons におけるアクティブラーニングを促進するため、司書によるきめ細かなサポートを行うとともに、第 2 期中期計画期間中の学修支援体制の更なる充実に向けた検討を行った。</p> <p>以上のように、学習環境及び学習支援体制を整備するための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>整備するための優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 積極的な広報と学生の確保 広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。	の画像データ等をデータベース化する。 (3) 積極的な広報と学生の確保 <u>ア 積極的な広報（小項目）</u> (ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。 (イ) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。 (ウ) 大学院案内の内容を見直すとともに、英語版を作成する。 (エ) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）、シンボルデザイン等を作成する。 <u>イ 学生の確保（小項目）</u> (ア) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修しやすい環境を整備する。 (イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、					
			<u>小項目評価</u> ○芸術学研究科では、大学院生及び修士生の研究成果を身近に見ることができる場を設けるなど、以下の取組を行った。 【取組実績】 大学院ガイダンス等の実施 ・随時：進学希望学生を対象とした担当教員によるガイダンス（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸） ・7月：学部生を対象としたプレ修了制作作品のプレゼンター	b	【評価理由】 学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 教育実施体制の整備 学生の多様化や社会の変化に速やかに対応するとともに、広島市立大学の教育に関する目標を実現するために必要な教育実施体制を整備する。	海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。 (7) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。	○大学院ガイダンスの充実並びに芸術資料館における作品展示の実施及び総括	<p>ション（造形計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月：大学院作品展示と公開講評（染織造形） ・ 7 月：旧日本銀行広島支店での院生の作品展示（視覚造形） ・ 10 月：博士前期課程芸術理論研究分野の説明会（芸術理論） ・ 10 月：芸術資料館における作品展示（大学院生及び修了生の作品を展示） ・ 4 月：「新収蔵作品展」 ・ 6 月：「卒業・修了優秀作品展」 ・ 8 月：「食と平和そして、アートへ」 ・ 10 月：「新任教員展」（本学の助教に着任した修了生の作品を展示） ・ 1 月：「博士後期課程本審査作品展 吳青峰」 ・ 1 月：広島市立大学主催の卒業・修了作品展における展示 ・ 2 月：「第 19 回卒業・修了作品展」 <p>【大学院入学試験実施状況（平成 28 年 4 月入学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士前期課程（募集人員 30 名） 志願者数 34 名、入学者数 27 名 ・ 博士後期課程（募集人員 6 名） 志願者数 3 名、入学者数 3 名 <p>第 1 期中期計画期間を通じてこれらの取組を継続し、大学院進学者の確保に努めた。</p> <p>以上のように、学生の確保についての取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<u>ア 教職員の配置等（小項目）</u> (7) 大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。 (4) 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、ティーチングアシスタント（大学院生が教育の補助を行う制度をい					

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	う。)、リサーチアシスタント(大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)等の教育支援体制を整備、拡充する。 イ 教育環境の整備(小項目) (7) 学生の多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの共同開催等に取り組む。 (4) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。 (5) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。 ウ 芸術情報の利用環境の整備(小項目) (7) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備する。 (4) 学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、芸術資料館の企画等による美術鑑賞事業を実施する。	○設備等共同利用やイベントの共同開催 ○ラーニングcommonsを活用したイベントの開催 ○フォトスタジオを利用した所蔵品コンテンツの充実とデータベースの高度化等に係る検討	小項目評価 ○「いちだい知のトライアスロン」関係事業の実施に当たり、附属図書館、語学センター及び芸術資料館が連携し、出張講座や映画上映会をはじめ、内容の充実したイベントの共同開催を行った。また、附属図書館と情報処理センターの貸出用ノートパソコンの相互利用を継続し、学習支援の向上を図った。情報処理センターでは、学内のサーバ証明書更新に伴い、貸出用ノートパソコン内のクライアント証明書を更新してセキュリティの強化を図り、学習支援の充実に取り組んだ。 ○ラーニングcommonsを活用したイベントを多数実施した。学内への幅広い呼び掛けにより、附属図書館のみならず様々な主体による活用が進んだ。 以上のように、教育環境の整備について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 教育環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			小項目評価 ○フォトスタジオにおいて、所蔵品の版画 112 点をデジタル高精細解像度(8,000 万画素)で撮影した。また、芸術資料館の新所蔵作品 12 点の画像等を新たに本学ウェブサイトに掲載し、芸術資料館所蔵品データベースのコンテンツを充実した。 以上のように、芸術情報の利用環境の整備に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(3) <u>健康の保持増進支援（小項目）</u></p> <p>学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。</p> <p>(4) <u>就職支援（小項目）</u></p> <p>ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。</p> <p>イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。</p>	<p>○留学生に対する就職支援の充実に向けた検討</p> <p>○多様なインターンシップの活用</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○7月にキャリアセンター主催の「外国人留学生のための就職支援セミナー」を新たに開催した。広島県留生活躍支援センター職員を講師に迎え、19名の留学生を対象に、日本での就職活動の方法、留学生の就職活動における現状と課題などに関する説明を行った。また、広島県留生活躍支援センター、国際交流推進センター及び学内教職員と連携してインターンシップや学内合同企業説明会の情報提供を行うなど、留学生に対するきめ細かな就職支援を行った。</p> <p>○2年目を迎えた広島市の「有給長期インターンシップ」モデル事業に本学から10名が応募し、5名が参加した。本事業には、他大学の19名を含む24名が参加し、インターンシップ終了後に開催された報告発表会では、体験発表、受入企業から与えられた特定のテーマに関する提案を行い、本学の学生2名が「優秀賞」を受賞した。また、広島東洋カープ企業インターンシップ（広島東洋カープアカデミーオブベースボール（ドミニカ共和国）・2名派遣）、在日米国大使館・総領事館インターンシップ（4名派遣）という特色のあるインターンシップも引き続き実施した。さらに、採用活動スケジュールの繰下げに伴い新たに実施されるようになった冬季・春季インターンシップ(1dayインターンシップ等90件)など、多様化するインターンシップを積極的に周知し、学生の参加を促した。</p> <p>そのほか、就職・キャリア形成支援としては、就職希望者の活動状況を把握するため、教員と連携して全学生の就職活動状況の調査を行った。また、就職・キャリアガイダンス等を体系的に整理して効果的な実施を図るとともに、学内ポータルサイト、キャリアセンターウェブサイト等を活用して周知を徹底した。その結</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>果、各セミナーへの参加者数・出席者数が増加した。さらに、企業の採用担当者（234 社が参加）を招いた大学説明会・情報交換会では、新たに学生の芸術作品を展示したことに加え、入念な準備と指導を行った上で学生によるプレゼンテーションを実施したことにより、参加者から高い評価を得た。</p> <p>以上のように、本学の就職指導・支援を大きく強化する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p><u>(5) 課外活動支援（小項目）</u> 学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。</p>					
	<p><u>(6) 経済的支援（小項目）</u> 優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。</p>					
	<p><u>(7) 留学生支援（小項目）</u> 留学生の宿舎を確保するため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支援事業、財団法人日本国際教育支援協会の留学生住宅総合補償制度等の活用を進める。</p>	<p>○国際学生寮の整備に向けた効率的かつ効果的な寮運営・寮教育のあり方の検討</p>	<p><u>小項目評価</u> ○学生担当副理事、国際交流担当副理事及び国際交流推進センター長を中心とする研究チームにより、寮運営・寮教育の在り方について検討を行った。国内 9 大学の寮を視察するとともに、理事・事務連絡会議や教育研究評議会等において意見集約を図りながら、国際学生寮で身に付けさせる能力や寮生活・寮運営の基本的方向性などについて幅広く調査・研究した。</p> <p>検討の結果、「共同生活を通じた教育」、「外国語能力を高める学習」、「寮生活を円滑にする交流の実施」及び「学生役職者による生活環境づくり」という、寮生活・寮運営における四つの柱を整理し、具体的なプログラム等の策定に着手した。</p> <p>以上のように、留学生の宿舎確保に加え、寮生活を通じた日本文化の理解や国際交流、人材育成等の促進につながる取組を大きく前進させたことから、「s」と評価した。</p>	s	<p>〔評価理由〕 留学生の支援について特に優れた取組を実施したと認められるものの、国際学生寮の整備は計画段階であることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕 ○国際交流の活性化という悲願の下、国際学生寮の整備に向けた予算の確保という大仕事を成就したことを評価すべきだ。 ○留学生受入れのための滞在施設の確保という課題を克服しつつあること、国際学生寮を留学生及び日本人双方に対する教育の場とするコンセプトが良い。 ○国際学生寮に係る業務実績に</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 研究に関する目標 研究の活性化を目指し、外部資金の積極的な獲得と活用に努めるとともに、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。また、地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野として、個性的な研究活動や学内外との研究交流を積極的に展開し、その成果を教育に反映させるとともに、社会に還元する。	3 研究（大項目） (1) 研究活動の活性化と成果の普及 <u>ア 研究活動の活性化（小項目）</u> (ア) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）		大項目評価 外部資金の積極的な獲得による研究活動の活性化のため、全教員を対象とした研修会や個別相談等を実施し、引き続き科研費の高い獲得実績を維持した。 各学部等においては、紀要の発行、シンポジウムの開催、研究公開イベントへの出展や技術相談・技術指導の実施等に取り組んだ。 芸術学部では、外部資金等を活用して教員・学生による展覧会等の研究発表活動を多数実施したほか、広島平和研究所では、学外研究者を積極的に受け入れて研究活動の活性化を図るとともに、英語による市民講座の新規実施や研究フォーラム、被爆 70 周年をテーマにした国際シンポジウムの開催等により、研究成果の積極的な普及及び還元を努めた。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	ついては、単に調査、研究した内容ではなく、どの程度着手、実施したかの内容が重要である。 ○国際学生寮の整備計画について、実現の可能性が高まった段階であるにすぎない。	
			小項目評価 ○全教員を対象にした外部資金獲得研修会を開催した。また、科研費等の申請支援策として、社会連携センターでの個別相談に加え、採択を受けた申請書の閲覧を実施した。 【科研費申請率等実績：（ ）は平成 26 年度実績】 ・科研費申請率 63.2% (68.3%)、採択率 60.8% (53.5%)、獲得	a	【評価理由】 研究全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			【評価理由】 研究活動の活性化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	a	【評価理由】 研究活動の活性化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>を導入する。</p> <p>(イ) 科学研究費補助金等外部資金の申請率、採択率の向上を図る。</p> <p>(ウ) 外部資金を含めた研究費を弾力的かつ効果的に執行するための制度を導入する。</p> <p>(エ) 国際学部及び国際学研究科では、研究活動における学内外との連携を強化するため、客員研究員や共同研究者のための研究スペースを確保する。</p> <p>(オ) 情報科学部及び情報科学研究科では、社会へ発信する知的財産を効率的に創出するため、大学として取り組むべき基盤的研究及び時代のニーズに適合した先端的・革新的なプロジェクト研究に対し、研究費等を重点的に配分する。また、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究に対し、教員研究費の一部を毎年度重点的に配分する。</p> <p>(カ) 芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に推進する。</p> <p>(キ) 平和研究所では、研究活動の活性化を図るため、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を</p>	<p>○研修会の開催等による外部資金獲得の支援</p> <p>○プロジェクト研究、共同研究に対する教員研究費の重点配分及び総括</p> <p>○外部資金獲得による研究発表活動の促進</p> <p>○教員・学生による展覧会開催等の研究発表活動の積極的な推進</p> <p>○学外研究者の受入促進</p>	<p>金額[間接経費を含む。]123,890千円(126,900千円)</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、教員研究費の重点配分の狙いを明確化するため、「社会連携関係」、「外部資金関係」としていた申請区分を、「情報科学研究科全体に係る研究」、「競争的資金の各種プログラムに応募する課題」、「研究成果の普及活動」、「その他、情報科学研究科の研究促進に役立つもの」という四つの区分(重複選択可)に改め、申請書の様式等も刷新した。6件の申請について審査を行い、災害情報配信システムの研究開発等3件(計2,000千円)を採択し、教員研究費の重点配分を行った。教員研究費の重点配分による戦略的な予算措置を行うことで、外部資金獲得のための準備研究などに成果を挙げている。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、科学研究費補助金、財団助成金等の外部資金を活用し、教員による展覧会活動、論文発表及び講演会活動等の研究発表や学生による展覧会発表を積極的に展開した。</p> <p>【取組実績:()は平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研究発表件数:41件(42件) ・学生による展覧会発表件数:14件(10件) <p>また、教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に行った。</p> <p>【取組実績:()は平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による学内特定研究費、市政貢献プロジェクト等を活用した展覧会、活動、論文発表、講演会活動等の研究発表件数:13件(6件) ・教員による自主的な個展、グループ展、講演会活動等の研究発表件数:170件(157件) ・学生による自主的な個展、グループ展等の研究発表件数:116件(113件) <p>○広島平和研究所では、3名の客員研究員を受け入れ、研究活動の活性化を図った。</p> <p>以上のように、外部資金の積極的な獲得と活用など、研究活動の活性化のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>促進する。</p> <p>イ 研究成果の普及及び還元 (小項目)</p> <p>(7) 国際学部及び国際学研究科では、研究成果普及の一環として平成 20 年度(2008 年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行する。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。</p> <p>(エ) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を図る。</p>	<p>○国際学部叢書の年次刊行</p> <p>○研究公開イベントへの出展</p> <p>○特許出願、共同研究を通じた研究成果の社会への普及・還元</p> <p>○芸術資料館等における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会等の開催</p> <p>○出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会、紀要、ニューズレター等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国際学部叢書第 7 巻『<際>からの探究』の刊行に向けて編集作業を行った。内容の充実を図るため、国際学部の教員のみならず、本学出身の研究者などに幅広く寄稿を募ったところ、当初の想定を超える原稿が集まり、内容の一部見直し・調整が必要となった。そのため、スケジュールを見直し、平成 28 年度中の発刊に向けて取組を進めている。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、産学連携研究発表会など各種イベントへの出展等を行った(出展件数 78 件(平成 26 年度: 78 件))。また、平成 26 年度に新たに実施した企業研究者・開発者向けの技術セミナーを、情報科学部公開講座の一環として平成 27 年度も 2 件開催した(12 月 15 日、21 日)。さらに、国のプロジェクトの受託研究、共同研究を実施したほか、研究成果に係る特許出願手続等を行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、以下のとおり、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会及び大学院研究成果の発表展示会を開催した。また、「第 19 回卒業・修了作品展」では、会場の一部である芸術資料館にも多数の来場があった(市立大会場: 731 名、広島市現代美術館会場 1,395 名)。これらの展示会を含め、芸術資料館の年間開館日数が 101 日となり、平成 26 年度に続き年間 100 日以上の開館を達成した。</p> <p>○広島平和研究所では、学術研究成果を社会に還元するための講演会、公開講座、シンポジウム等の企画及び実施、出版活動などに取り組んだ。また、英語による市民講座を新たに実施し、研究員 4 名が各々の専門分野から興味深いトピックを取り上げた。</p> <p>以上のように、研究成果の普及及び還元のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>研究成果の普及及び還元について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(イ) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）により公開する。</p> <p>(2) 研究体制の強化（小項目）</p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。</p>					
		○日本軍縮学会、日本平和学会等、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究活動の促進	<p>小項目評価</p> <p>○広島平和研究所では、以下のとおり学会における研究活動を促進した。</p> <p>【取組実績：（ ）は平成26年度実績】</p> <p>著書・論文の発表：23件（20件）、学会・研究報告等：19件（29件）。</p> <p>そのほか、学会活動や学会誌・学術誌における責任ある職務として、編集者3件、他大学・他機関との共同研究・連携22件。また、平成27年度の日本平和学会春季研究大会を本学が開催校となって実施した。</p> <p>以上のように、研究体制を強化するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
<p>4 社会貢献に関する目標</p> <p>教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心的な窓口として、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との</p>	<p>4 社会貢献（大項目）</p>		<p>大項目評価</p> <p>市大英語eラーニング講座や県立広島大学との連携公開講座等、引き続き特色ある多様な講座を実施して多数の市民の参加を得た。</p> <p>また、キッズキャンパス、ひろしまコンピュータサイエンス塾、中高生の科学研究実践活動推進プログラムなど、幼児や児童生徒に対する学習支援・教育活動を展開し、参加者から高い評価を得た。</p> <p>人材育成等のための共同事業として、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に本学の「観光振興による『海</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>交流及び連携を積極的に推進する。また、広島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>(1) <u>生涯学習ニーズへの対応</u> (小項目) ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育（社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。）を推進するため、社会人講座等の充実を図る。 イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライトキャンパスを設置する。</p>	<p>○公開講座の開催</p>	<p>の国際文化生活圏』創生に向けた人材育成事業」が採択され、他大学・地方自治体・企業等との連携の下、地域の発展に貢献する人材の育成に向けた取組に着手した。</p> <p>企業等との連携では、社会連携センターを窓口を受託研究・共同研究を積極的に推進するとともに、行政機関等との連携では、共同事業の事業経費が3年連続で前年度を上回った。</p> <p>芸術学部及び芸術学研究科では、芸術による地域の活性化に取り組む「基町プロジェクト」をはじめ、内容の充実した多数の地域展開型芸術プロジェクトを実施するなど、県内外において芸術による社会貢献に取り組む、芸術の社会的役割を広く地域に示した。</p> <p>また、広島平和研究所では、被爆 70 周年記念事業として、「日本平和学会春季研究大会」の開催、「平和と安全保障を考える事典」の編さん、「ヒロシマ 70 平和セミナー」の開催の三つの大きな事業を全研究員一丸となって取り組み、いずれも大きな成果を挙げた。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価 ○以下のとおり公開講座を開催した。</p> <p>【開催実績】</p> <p>①県立広島大学との連携公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしま学を考える（7月開催：延べ受講者数 329名） ・社会人のための英語再チャレンジ（10月開催：延べ受講者数 123名） <p>②国際学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Visitors から見た広島（11月15日開催：受講者数 55名） <p>③情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生による情報科学自由研究（7月～8月開催：受講者数 41名） ・実践情報科学セミナー（12月15日開催：受講者数 15名、同月21日開催：受講者数 7名） ・講演会（10月14日開催：受講者数 9名） <p>④芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け（日本画、油絵、版画、彫刻、染織造形：7月～9月開催：受講者数 104名） ・サマースクール（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：7月～8月開催：受講者数 103名） 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人向け工芸・版画技能講座（漆工、金工、染織、版画：4月～1月開催：受講者数 17名） ・社会人向け工芸・版画技能講座夏季特別講座（漆工、金工、染織、版画：受講者数 11名） ⑤市大英語 e ラーニング講座（第 1 期：受講者数 56 名、第 2 期：受講者数 49 名、第 3 期：受講者数 54 名） 受講者数計 973 名（平成 26 年度：1,434 名） 開催回数計 14 回（平成 26 年度：17 回） 以上のように、特色ある公開講座の開催により、生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
	(2) 「産学公民」連携の推進 <u>ア 地域産業界との連携（小項目）</u> (7) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組む。 (4) 先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリーダーシップを発揮する。	○受託研究・共同研究の推進 ○技術相談支援等の推進	<u>小項目評価</u> ○社会連携センターでは、企業等の外部機関と教員とのマッチングを図ったほか、契約締結や知的財産管理、研究費の支出管理等の支援を行い、受託研究及び企業等との共同研究の推進に取り組んだ。 【取組実績：（ ）は平成 26 年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・受託研究 件数：24 件（18 件） 研究費計：56,000 千円（34,151 千円） ・共同研究 件数：13 件（12 件） 研究費計：7,458 千円（11,310 千円） ・補助金 件数：3 件（2 件） 研究費計：65,420 千円（78,650 千円） ○地方自治体及び地域産業界に対する技術相談対応や ICT の活用技術支援等を行った（22 件）。また、平成 27 年度大学 ICT 推進協議会 CIO 部会・年次大会及び平成 27 年度公立大学協会情報部会に出席し、文書管理システムの導入事例等に関する情報提供を行った。さらに、広島市企画総務局情報政策部情報システム課から 3 名の協力研究員を受け入れ、共同事業を実施した。広島市が運用するシステムに関する課題解決や関連技術の説明などの研修（17 回）を行い、同市職員の ICT 技術の向上に寄与した。 【取組実績】 広島県：6 件 広島市：11 件 国：1 件 その他：4 件	a	【評価理由】 地域産業界との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>以上のように、地域産業界等との連携を積極的に推し進め、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p><u>イ 国、地方自治体等との連携（小項目）</u></p> <p>(7) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。</p> <p>(4) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p> <p>(ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢献する。</p> <p>(エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。</p> <p>(オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島市の産業振興に貢献する。</p>	<p>○附属機関等の委員への就任、講師派遣</p> <p>○行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施</p> <p>○広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるための促進策の検討</p> <p>○「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の調査や展示等への学術支援等</p> <p>○地域美術館との連携</p> <p>○ICT 関連機関への委員就任</p> <p>○ICT 関連講演会への講師派遣、共同事業の実施</p> <p>○地域自治体や産業界への技術相談支援、イベ</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○附属機関等の委員への就任（131 機関）及び講演会等への講師派遣（40 件）を行った。</p> <p>○広島市その他行政機関等との共同事業を実施した。</p> <p>【実績：（ ）は平成 26 年度実績】</p> <p>件数：23 件（18 件）、事業経費：50,122 千円（32,565 千円）</p> <p><内訳></p> <p>①広島市関係分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・件数：10 件（13 件） 受託研究：5 件 市政貢献プロジェクト：4 件 社会連携プロジェクト：1 件 ・事業経費：20,755 千円（19,994 千円） <p>②その他行政機関等関係分受託研究、共同研究</p> <p>【国、独立行政法人、公益財団法人等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・件数：13 件（5 件） ・事業経費：29,367 千円（12,571 千円） <p>加えて、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、本学の「観光振興による『海の国際文化生活圏』創生に向けた人材育成事業」が採択され、他大学・地方自治体・企業等との連携の下、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付いて、その発展に貢献する人材」の育成に向けた取組に着手した。本事業の採択により、5 年間の事業期間中に約 2 億円（金額は申請ベース）という大型の外部資金を獲得した。</p> <p>○第 2 期中期計画の策定に向け、広島市職員や小中高等学校教員等に対する授業料の減免制度等の検討を行った。また、広島平和研究所主催のヒロシマ 70 平和セミナーに広島市から 5 名、公益財団法人広島平和文化センターから 4 名の職員が参加した。</p> <p>○広島平和研究所では、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、広島平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。また、平和記念式典や日本平和学会春季研究大会の開催に合わせ、「光の肖像」展（被爆者やその二世・三世の肖像画の展示）を開催した。</p> <p>【実績：（ ）は平成 26 年度実績】</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>国、地方自治体等との連携について特に優れた取組を実施したと認められることから、「S」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○「広島広域都市圏」等、市の基本戦略に合わせて、文部科学省の大型ファンドを獲得した。</p> <p>○特に地域展開型の芸術プロジェクトについて非常に良く活動している。大学の特色として評価して良い。</p> <p>○芸術学部・芸術学研究科の活動はこの大学の特色の一つだ。十分な実績を残しているのだから、効果的な広報を行い、大学の知名度の向上につなげて欲しい。</p>	S

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	(カ) 地域社会等と連携し、地域展開型の芸術プロジェクトを積極的に推進する。	<p>ントへの ICT 活用技術支援</p> <p>○地域展開型の芸術プロジェクトの実施</p>	<p>・「広島・長崎講座」への協力：8 講座（8 講座） 本学の講義：7 講座 他大学での講義：1 講座</p> <p>・市民向け講座への協力：29 回（18 回） 本学：10 回 学外：19 回</p> <p>・公益財団法人広島平和文化センター・広島平和記念資料館への協力：15 回</p> <p>・中高生向け講座等：4 回</p> <p>○地域美術館との連携事業を実施することにより芸術資料館の所蔵品を内外に周知し、所蔵品の貸出しや特別協力展示による連携にも進展が見られた。また、芸術資料館の作品購入に当たっては、外部の評価を取り入れるため、市内美術館学芸員の協力を得た。</p> <p>○ICT をはじめとした技術支援については、総務省や広島市等における ICT 関連の附属機関等の委員（13 機関）に就任するとともに、ICT 関連の招待講演・基調講演・セミナー等、依頼に基づく講演を多数行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、学生主導型 12 件、教員主導型 26 件、計 38 件の地域展開型の芸術プロジェクトを実施した。大きな取組としては、平成 26 年度に引き続き、芸術による地域の活性化に取り組む「基町プロジェクト」を実施し、様々な事業を行うとともに、地域行事への積極的な参加などにより地域住民との交流を図った。</p> <p>そのほか、代表的な取組として、以下の事業を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月：広島市の被爆 70 周年記念事業の一環として、日本平和学会春季研究大会と合同で、広島の被爆者やその二世・三世の肖像画の展覧会である「光の肖像」展を開催 ・8 月：11 回目となる「キッズキャンパス 2015」を旧広島市民球場跡地で開催 ・8 月～9 月：5 回目となる「対馬アートファンタジア 2015」を開催 ・10 月：市内中学校において、被爆 70 周年「折り鶴の碑」平和集会記念事業アートステージ「<折り鶴>、明日へ……。」を開催 ・10 月～11 月：FUJIMURA INSTITUTE（アメリカ）、Brehm Center 			

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>(アメリカ)と連携し、「QU4RTETS」展・「Eliot at Ground Zero」コンサートを開催</p> <p>・10月～11月：呉の風景やまちの^{なま}まいを題材にした学生による版画展「くれ三十六景～学生たちが見た呉の風景～」を開催</p> <p>・10月・2月：釜山（韓国）及び広島でそれぞれ行ったアーティスト・イン・レジデンスによる国際交流の展覧会（釜山：2人展「Island」、広島：「Memory Glómeration」、「An Echo」）を開催</p> <p>以上のように、各学部等において、国、地方自治体等との連携を積極的に推進し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>ウ 学術機関及び研究機関との連携（小項目）</p> <p>(7) 国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターンシップ等の充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」（平成 21 年度(2009 年度)文部科学省採択事業）を推進し、情報科学、医学、工学の知識を有した人材を育成する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、卒業修了制作展</p>	<p>○共同研究、プロジェクト研究等への参画の推進</p> <p>○研究交流を通じた海外学術交流協定大学との連携強化</p> <p>○関係機関との連携による公開講座、インターンシップ等の充実</p> <p>○情報医工学プログラムの評価及びプログラム内容等の改善</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者と共同研究（42 件）、プロジェクト研究（5 件）を実施した。また、広島市の被爆 70 周年記念事業として刊行した「平和と安全保障を考える事典」には、国際学部の教員も編集委員・執筆者として参画し、編集に関わった多くの学外研究者との連携の下、同事典の発行に取り組んだ。さらに、平和学の学術交流を念頭に置いて、平成 26 年度に引き続きブラッドフォード大学（イギリス）との交流を企画し、同大学のデービッド・フランシス平和学研究科長を招聘して特別講義を開催するとともに、海外学術交流協定の締結に向けた協議を開始した。</p> <p>また、海外学術交流協定大学であるハワイ大学マノア校（アメリカ）及び西南大学（中国）への短期特別研修を行った。</p> <p>加えて、平成 28 年度からは、オルレアン大学（フランス）への短期特別研修及びワインガートン教育大学（ドイツ）への試験的學生交換プログラムを実施することとした。そのほか、関係機関との連携の下、公開講座、インターンシップ等を実施した。広島東洋カープアカデミーオブベースボール（ドミニカ共和国）は、本学独自の取組として定着し、優れた教育効果を挙げた。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、他大学との連携の下、情報医工学・臨床情報医工学プログラム等を実施し、医療・情報・工学を横断的に理解する専門家の育成に取り組んだ。</p> <p><情報医工学プログラム></p> <p>・7年目のプログラムを実施中である。平成 25 年度以降の新規の履修については、臨床情報医工学プログラムを履修するよ</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学術機関及び研究機関との連携強化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>の開催等を通じ、広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(エ) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流を積極的に推進する。</p>	<p>○共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p> <p>○被爆 70 周年記念事業の実施</p>	<p>うに指導しているため、本学が提供する講義の受講者はいなかった。</p> <p>・本学から 1 名の学部生が広島工業大学から提供されている「医療機器の原理と構造」を受講し、情報医工学プログラムを修了した。</p> <p><臨床情報医工学プログラム></p> <p>・本学が提供する学士課程の講義の受講者数は「医用情報科学」26 名、「生体信号処理」33 名、「医用プログラミング」27 名、大学院課程では「医用ロボット学特論」5 名であった。</p> <p>・本学から 16 名の学部生（1 年生・2 年生）が早期医療体験実習を受講した。</p> <p>・本学から 13 名の学部生（3 年生）が医療体験実習を受講した。</p> <p>・本学から 13 名の学部生（3 年生）が平成 27 年度から必修となった「臨床情報医工学特別演習」を受講し、合同合宿での研修、情報医工学展（広島大学、広島工業大学で開催）及び FD・SD 研修会での成果報告を行った。</p> <p>・学部向け講義として開講している「医用情報科学」を医用情報科学科の教員が分担して実施した。</p> <p>・本学の学部生 10 名（3 年生）が、臨床情報医工学プログラムが定める所定の単位を修得し、プログラム修了と判定された。</p> <p><両プログラム共通></p> <p>・本学のオープンキャンパス（8 月）において、両プログラム履修学生の製作物の展示・デモンストレーションを実施した。</p> <p>・霞祭（広島大学医学部・歯学部・薬学部の大学祭）・工大祭（広島工業大学の大学祭）の情報医工学展において、両プログラム履修学生の製作物の展示・デモンストレーションを実施した。</p> <p>・連携大学にて持ち回りで開催される FD・SD 研修会、学外での合同合宿研修（春季・夏季）を実施した。</p> <p>これらの取組により、医療・情報・工学の連携による人材育成に大きな成果を挙げているものと評価している。</p> <p>○広島平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、核・軍縮研究会（6 回）、人間の安全保障研究会（5 回）、信頼醸成研究会（4 回、うち 2 回はソウル（韓国）で開</p>			

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>催)の三つの共同研究会を実施した。また、東アジアにおける平和及び安全保障という共通目標達成のため、外交政策や安全保障のシンクタンク「世宗研究所(韓国)」と、国際会議の共同開催や学術交流等についての相互協力協定を締結した。</p> <p>○広島平和研究所が企画した三つの被爆 70 周年記念事業を同研究所の全研究員が参加して実施した。</p> <p>①「日本平和学会春季研究大会」の開催 被爆 70 周年という節目に、JMS アステールプラザ(広島市)で、「敗戦後 70 年の地点で平和を再定位するーヒロシマで考えるアジア太平洋平和秩序への道筋」を大会テーマに、日本平和学会春季研究大会を開催した。全国から集まる会員にヒロシマの心を伝えるとともに、そこで構築されるネットワークを広島平和研究所の発展に生かしていくことを狙いとし、大きな成果を挙げた。</p> <p>②「平和と安全保障を考える事典」の編さん、刊行 平和研究のための重要かつ基礎文献となる事典を平成 28 年 3 月に刊行した。本事典の刊行後は、アジアにおける核廃絶と安全保障共同体の構築の動向を分析する年鑑「アジアの核と平和」(仮称)を発行することについて検討した。</p> <p>③「ヒロシマ 70 平和セミナー」の開催 平和問題を伝えるマスメディア関係者、平和行政や政策に携わる公務員、将来の平和研究に携わることになる大学院生を対象に、「平和と核問題」の歴史と現状分析について、3 日間の集中講義を行った。参加者は、マスメディア関係者 7 名、公務員 13 名、大学院生 9 名の 29 名であった。被爆 70 周年記念事業として実施したが、今後も同セミナーを発展させ、継続実施することとした。</p> <p>以上のように、各学部等において学術機関及び研究機関と連携し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>エ 小中高等学校等との連携 (小項目)</p> <p>(7) 市内の小中高等学校に対する学習支援、教員のリフレッシュ教育(大学、大学院等の高等教育機関が、職業人に職業上の知識、技</p>	○市内の小中高等学校に対する学習支援の実施	<p>小項目評価</p> <p>○学習意欲に富む小中高生等に対する学習支援・教育活動を行った。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズキャンパス：幼児・児童を対象に芸術制作を体験する機会を提供 ・ひろしまコンピュータサイエンス塾：小学生に情報科学の先 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>小中高等学校等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>術を新たに修得させることを目的とした事業をいう。)等に取り組む。</p> <p>(1) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。(再掲)</p> <p>(3) 社会連携センターの機能の充実</p> <p><u>ア 社会連携センターの体制整備(小項目)</u></p> <p>多様化する「産学公民」連携のニーズに迅速に対応し、効果的に事業を実施するための組織体制を整備する。</p> <p><u>イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援(小項目)</u></p> <p>(7) 展示会への出展やメールマガジンの配信等様々な広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等</p>	<p>○広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるための促進策の検討(再掲)</p> <p>○展示会への出展等の広報活動、技術相談の実施</p>	<p>端知識・技術に触れる機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術学部サマースクール：中高生対象の日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸講座を開催 ・高校生のための情報科学ゼミナール、高校生による情報科学自由研究を開催 ・広島県科学オリンピック開催事業：講師・審査員の派遣、会場提供を実施 ・中高生の科学研究実践活動推進プログラム：高校生や教員を対象としたセミナーを広島県教育委員会と共同実施 ・グローバルサイエンスキャンパス事業(採択校：広島大学)：運営委員への就任、審査員の派遣、研究指導を実施 ・全国高等学校総合文化祭情報部門プレ大会：会場提供、平成28年度の本大会に向けた調整を実施 <p>そのほか、教育ネットワーク中国や広島市教育委員会を通じた高大連携講座の開催、高校での模擬授業の実施等にも取り組んだ。</p> <p>以上のように、小中高等学校等との連携を強化するための多彩な事業を実施し、参加者等から高い評価を得たことから、優れた取組を実施したものと、「a」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○展示会への出展等の広報活動や技術相談の実施等を通じ、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行った。また、社会連携コーディネーターを窓口として、技術相談を実施した。</p> <p>【出展等実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月：イノベーション・ジャパン2015(東京) ・11月：中国地域さんさんコンソ新技術説明会(東京)、新技術説明会 in 広島(広島)、広島県信用金庫合同ビジネスフェ 	b	<p>【評価理由】</p> <p>「産学公民」連携の強化や社会貢献の推進のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>のニーズとのマッチングを行う。</p> <p>(イ) 「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催する。</p> <p>(ロ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。</p> <p>(エ) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>○セミナー、フォーラム等の開催</p> <p>○セミナー、フォーラム等の評価</p> <p>○学外研究機関との教育研究活動等の支援</p> <p>○社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>ア 2015 (広島)</p> <p>・2月: ちゅうごく産業創造センター第3回医療福祉機器事業化交流会 (広島)</p> <p>【技術相談】(随時実施)</p> <p>・相談件数: 63件 (平成26年度: 66件)</p> <p>○「産学公民」連携推進のための展示会(講演会も併せて実施)を開催した。</p> <p>【開催実績:()は平成26年度実績】</p> <p>・9月: 産学連携研究発表会 [来場者数: 約150名(約160名)]</p> <p>・1月: 広島市立大学の地域貢献事業発表会 [来場者数: 約150名(約150名)]</p> <p>○経済産業省所管の独立行政法人工業所有権情報・研修館が行う「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に重点支援校として参画し、知的財産に関する課題解決への取組を進めた。また、文部科学省から採択を受けた補助事業「革新的イノベーション創出プログラム(研究リーダー: 広島大学)」及び「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業(事業責任者: 広島大学)」に参画し、研究活動の一層の推進を図った。広島平和研究所では、国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業実行委員会発行の「広島の復興の歩み」(平成27年3月)の作成に研究員2名が関与しており、平成27年度はその英語版「Hiroshima's Path to Reconstruction」の作成に、研究員2名が監修・執筆者として翻訳に協力した。また、県内8大学と5研究機関で構成するひろしま平和研究・教育機関ネットワークの設立(平成25年2月)当初から研究員が副代表として加わっており、平成27年度も加盟大学・研究機関の連携を推進した。</p> <p>○地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援した。</p> <p>【実績:()は平成26年度実績】</p> <p>応募件数: 12件(8件)、応募総額: 9,878千円(6,872千円) 採択件数: 9件(3件)、採択総額: 4,745千円(1,924千円) ※採択件数のうち3件(2,539千円)については、市政貢献プロジェクトとして実施</p> <p>以上のように、学部及び研究科等の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援を計画どおり着実に実施したことから、「b」と</p>			

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 国際交流に関する 目標 海外学術交流協定 大学との人材交流を 積極的に展開すると ともに、留学生への支 援体制の充実を図る。	<p>ウ 研究成果、学内資源等の活用 (小項目) 知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。</p> <p>エ 学生の育成 (小項目) 「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施し、学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせる。</p> <p>5 国際交流 (大項目)</p>	<p>○知的財産の創出の推進</p> <p>○「市大生チャレンジ事業」の実施</p>	<p>評価した。</p> <p>小項目評価 ○特許の出願や登録等により、知的財産の創出に取り組んだ。また、毎月1回、芸術学部の社会連携委員会委員を対象に、知的財産管理に関するセミナーを開催したほか、知的財産に関するFD・SDセミナーを12月に実施した。 【取組実績：()は平成26年度実績】 特許出願：14件(11件)、審査請求：5件(6件)、特許登録：2件(1件) ※特許出願14件のうち企業・他研究機関等との共同による発明に係るもの：9件 以上のように、研究成果、学内資源等の活用について計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	〔評価理由〕 研究成果、学内資源等の活用のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
			<p>小項目評価 ○学生による「市大生チャレンジ事業」を実施するとともに、学生向けのプロジェクトへの参画促進に取り組んだ。 【実績：()は平成26年度実績】 ・応募件数：7件(6件)、応募総額：391千円(586千円) ・採択件数：4件(6件)、採択総額：202千円(586千円) ・実施プロジェクトのテーマ ①市大生によるパソコンなんでも相談室2015 ②ひろしま発人材集積促進プロジェクト(デザイン分野)－HAPPYシマス。OK Islandプロジェクト－ ③ヒロシマピースキャンプ2015 ④3学部生コラボレーションによる禁煙パフォーマンス－未成年の未喫煙者のために－ 以上のように、学生の育成のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	〔評価理由〕 学生の育成についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
			<p>大項目評価 学術交流協定については、ハワイ大学マノア校(アメリカ)との協定を更新するとともに、新規の協定締結に向けてカナダを訪問し、エミリー・カー美術デザイン大学等との協議を行った。また、本学学生のシンガポール国立大学での短期派遣プログラムを新たに実施した。 海外派遣学生等の安全を確保するため、海外危機管理サポートサービス等に係る企業包括契約を締結し、派遣留学や短期研修プログラム等についての危機管理体制を構築した。</p>	a	〔評価理由〕 国際交流全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>受入留学生に対しては、オリエンテーションや日常的な対応を含め、国際交流推進センター職員が懇切・丁寧な指導を行うとともに、「留学生のための学生ボランティアアドバイザー制度」を活用し、日本人学生による留学生の支援を行った。また、留学生と地域との交流を目的とした1泊2日のホームステイ事業を新たに実施した。これらにより、留学開始直後の諸手続きがスムーズに進められ、留学生が日本での生活に早く順応することができるよう取り組んだ。</p> <p>また、留学生の獲得に向け、英語版大学案内リーフレットを新たに作成した。加えて、広島県主催の「海外共同リクルーティング事業」(タイ)に参加し、現地において本学への留学生受入れに関する情報提供を行った。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>(1) <u>海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開</u> (小項目)</p> <p>ア 各学部の特徴を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。</p> <p>イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。</p>	<p>○受入学生数増のための取組の推進</p> <p>○協定の締結及び更新</p> <p>○海外渡航に係る派遣学生等の安全確保</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際交流推進センターを中心に、魅力ある受入校となるため、以下のような取組を推進した。</p> <p>受入留学生に対して、オリエンテーションや日常的な対応を含め、国際交流推進センター職員が懇切・丁寧な指導を行った。また、日本人学生が留学生の支援を行う「留学生のための学生ボランティアアドバイザー制度」の活用を図った(平成27年度ボランティアアドバイザー登録学生数:15名)。これらにより、留学開始直後の諸手続きがスムーズに進められ、留学生が日本での生活に早く順応することができるよう取り組んだ。そのほか、留学生と地域との交流を目的に、後期から特別聴講学生に1泊2日のホームステイ事業を実施し、高い評価を得た。また、留学生の獲得に向け、英語版の大学案内リーフレットを新たに作成するとともに、広島県主催の「海外共同リクルーティング事業」(タイ)に参加し、現地において本学への留学生受入れに関する情報提供を行った。こうした取組の結果、受入留学生数は平成27年度は92名(5月1日時点)となった。</p> <p>○ハワイ大学マノア校(アメリカ)との学術交流協定を更新した。また、平成28年4月の協定更新に向け、アラヌス大学(ドイツ)との交渉を行った。新規の学術交流協定締結に関しては、カナダを訪問し、エミリー・カー美術デザイン大学等と協定締結に向けた協議を開始した。そのほか、アメリカ、マレーシア等における協定大学の開拓に向けて取り組むとともに、本学学生のシンガポール国立大学での短期派遣プログラムを新たに実施した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>海外学術交流協定大学との人材交流について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>○海外派遣学生等の安全確保のため、ジェイアイ傷害火災保険株式会社と海外危機管理サポートサービス等に係る企業包括契約を締結し、派遣留学や短期研修プログラム等についての危機管理体制を構築した。12 月には、大学執行部、各学部長、事務局職員等による海外緊急時対応シミュレーション訓練を行い、危機対応における意思決定プロセスの検証を行うとともに、危機管理意識の向上に努めた。</p> <p>また、学生の海外渡航情報の把握と効率的な海外安全情報等の提供のため、「海外渡航届」を作成して学生の提出を促進するシステムを構築した。</p> <p>以上のように、海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開を行ったことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
	<p><u>(2) 留学生への支援体制の充実 (小項目)</u></p> <p>ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備し、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度等を整備する。</p> <p>エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。</p>					
第 3 業務運営の改善及び効率化に関する	第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するた		<p>大項目評価</p> <p>平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 か年で計画的に事務マニユア</p>	b	〔評価理由〕 業務運営の改善及び効率化を	C

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
目標	<u>めとるべき措置（大項目）</u>		<p>ルを作成した。また、このマニュアルを定期的に見直し・更新することにより、事務処理の内容及び方法に係る点検を行う仕組みを整備した。この取組により、安定的かつ効率的な事務処理の推進に大きく寄与した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施した。</p> <p>しかしその一方で、物品購入に係る立替払において不適切な事例があったことから、「b」と評価した。</p>		<p>図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められるものの、事務処理の物品購入に係る立替払において不適切な事例があったことから、法人への戒めを込めて「C」と評価した。</p>	
<p>1 運営体制に関する目標</p> <p>(1) 機動的な運営体制の構築</p> <p>理事長（学長）がリーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進</p> <p>積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p>	<p><u>1 運営体制（小項目）</u></p> <p>(1) 機動的な運営体制の構築</p> <p>ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとともに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。</p> <p>イ 理事長、理事、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。</p> <p>ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。</p> <p>エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築する。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進</p> <p>ア 積極的な広報</p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。（再掲）</p> <p>(イ) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制</p>					

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 公立大学法人の監査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。 2 人事に関する目標 広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。 3 事務処理に関する	を整備する。 (ウ) 大学の「年報」を作成する。 (エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。 イ 大学運営への学外有識者の参画 理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。 (3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効性のある監査体制を整備する。 イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築する。 2 人事 (小項目) (1) 柔軟な人事制度の構築 ア 特任教員等の任用制度を導入する。 イ 裁量労働制を導入する。 ウ 兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成する。 (2) 教員評価制度の構築 ア 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。 イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。 3 事務処理 (小項目)					
			小項目評価	b	〔評価理由〕	c

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
目標 業務内容の変化に柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等に取り組みにより、効果的かつ効率的な事務処理に努める。	(1) 事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を実施し、必要に応じて改善を行う。 (2) 業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。 (3) 全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。	○事務処理の内容及び方法に係る点検の実施	○平成 25 年度から平成 27 年度の 3 か年で計画的に事務マニュアルを作成した。また、このマニュアルを定期的に見直し、更新することにより、事務処理の内容及び方法に係る点検を行った。この取組の結果、事務処理の内容及び方法に係る点検の仕組みを整備することができた。 以上のように、優れた取組を実施した。 しかしその一方で、物品購入に係る立替払において不適切な事例があったことから、「b」と評価した。		事務処理の改善等を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められるものの、事務処理の物品購入に係る立替払において不適切な事例があったことから、法人への戒めを込めて「C」と評価した。 〔コメント〕 ○不適切な事例が市の監査で指摘され、マスメディアでも話題とされた点に関し、法人は襟を正す姿勢を示すべき。	
第 4 財務内容の改善に関する目標	第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 (大項目)		大項目評価 自己収入の増加及び管理経費の抑制を図るための取組を創意工夫して実施した。 広島市中心部に開設したサテライトキャンパスを活用した各種公開講座の開催や、学内施設の一時貸付け等による多様な収入の確保に努めた。 教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、管理経費の抑制に努めるため、省エネルギー対策を推進するとともに、エネルギー使用量の最適化を図るため、非常用照明の LED 化を行った。その結果、電気、ガス、水道の使用量について、対前年度比 2.9%~6.9%の削減を実現した。また、社会連携センターの組織改正をはじめとする事務局の執行体制強化に努め、組織運営の効率化に取り組んだ。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
1 自己収入の増加 教育研究環境を向上させるため、外部資金の積極的な獲得に取り組むなど、自己収入の増加を図る。	1 自己収入の増加 (小項目) (1) 外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。 (2) 公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。 (3) 授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料	○多様な収入の確保	小項目評価 ○各種公開講座の開催など、多様な収入の確保に取り組んだ。 【実績：() は平成 26 年度実績】 ①各種公開講座の開催 受講料収入：5,378 千円 (5,395 千円) ②学内施設の一時貸付け 貸付料収入：292 千円 (349 千円) 光熱水費実費収入：967 千円 (1,331 千円) 以上のように、引き続き多様な収入の確保に取り組み、自己収入の増加を図るための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 自己収入の増加について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>2 管理経費の抑制</p> <p>全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努め、管理経費の抑制を図る。</p>	<p>金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。</p> <p>2 管理経費の抑制（小項目）</p> <p>(1) ICT の活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。</p> <p>(2) 教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。</p>	<p>○省エネルギー対策の啓発、管理経費の抑制</p> <p>○エネルギー使用量の最適化を図るための施設改修</p> <p>○教育研究水準の維持向上に配慮した適宜適切な教職員配置等の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○省エネルギー対策の啓発及び管理経費の抑制に係る取組を引き続き実施し、電気、ガス、水道の使用量について、対前年度比 2.9%～6.9%の削減を実現した。</p> <p>【取組実績】</p> <p>①教職員に対して省エネルギー対策への取組の徹底を周知</p> <p>②省エネルギー対策の一環として、8月13日・14日を全学休業日に設定</p> <p>③冷暖房の適切な運転管理を実施</p> <p>④節水対策として、芝生広場への散水に湧水を利用</p> <p>⑤外灯点灯時間を日没30分前から日没時に変更</p> <p>⑥池の水に雨水を利用</p> <p>⑦芸術学部棟のガス空調機器を一部更新</p> <p>⑧照明のLED化を推進</p> <p>また、平成26年10月から運用を始めた新学内情報システムにおいて、サーバ類や実習室の端末をプライベートクラウド構成とし、学内に設置していたサーバを学外データセンターに移設することにより、電力使用量の削減を図った。</p> <p>○エネルギー使用量の最適化を図るため、照明のLED化について検討を行い、平成27年度は階段の非常用照明のLED化を行った。</p> <p>○組織運営の効率化及び事務局の執行体制の強化を図るため、教職員配置等について検討を行った結果、以下のとおり平成28年度に見直しを行うこととした。</p> <p>【見直しの内容】</p> <p>①社会連携センターの業務の効率化及び組織力の強化を図るため、連携推進室とプロジェクト研究推進室の2室を廃止し、社会連携センターの組織を再編成</p> <p>②科研費に係る事務処理の効率化を図るため、教育研究支援グループに新たに科研費専任の特任職員を配置（当該事務の移管に伴い、社会連携センターのプロジェクト推進員を廃止）</p> <p>③事務局の執行体制の強化を図るため、次のとおり職員を増員・入試グループ、経営グループ、教務グループ、教育研究支</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>管理経費の抑制を図るために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成27年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>第5 自己点検及び評価に関する目標</p> <p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。</p>	<p>第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）</p> <p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p> <p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホームページ等で積極的に公開する。</p> <p>4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。（再掲）</p> <p>5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。（再掲）</p>		<p>援グループ、国際交流推進センター及びキャリアセンターに事務職員（特任職員）各1名（計6名）を増員</p> <p>・保健管理室に保健師（嘱託職員）1名を増員</p> <p>以上のように、管理経費の抑制に向けた優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>大項目評価</p> <p>施設の維持修繕の効率的な実施や省エネ設備の導入促進のため、「広島市立大学保全計画」の策定に取り組み、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算等を行うとともに、芸術学部棟のガス空調機器や講義棟の講義用機器の更新等を行い、施設及び設備の適切な維持管理等に努めた。</p> <p>また、学生寮隣接地への国際学生寮の整備に向けた取組を推進し、施設の配置や施設規模、事業予算等の具体的な検討に加え、設計・施工の発注に向けて地質調査を開始した。</p> <p>さらに、安全で良好な職場環境の確保に向け、職場巡視等の実施、衛生管理者の養成、救命処置教育の充実等に着実に取り組んだ。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
<p>第6 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置（大項目）</p>					

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>1 施設及び設備の適切な維持管理等</p> <p>快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充のための施設及び設備の整備に取り組む。</p>	<p>1 施設及び設備の適切な維持管理等（小項目）</p> <p>(1) 施設及び設備の効率的な維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。</p> <p>(2) 教育研究機能の充実を図るため、未利用の大学隣接地へのセミナーハウス等の新たな施設整備について検討する。また、日本人学生と留学生が日常的な交流等を通じて、相互の理解を深め、グローバルな視野を広げるための教育施設として、「国際学生寮」の整備に取り組む。</p>	<p>○施設・設備の効率的な維持管理の実施</p> <p>○学生寮機能・留学生受入施設機能を有する国際学生寮の整備に向けた取組の推進</p>	<p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p> <p>小項目評価</p> <p>○施設・設備の効率的な維持管理を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <p>①学生食堂・喫茶のリニューアルを実施し、明るいイメージで清潔感のあるものとした。</p> <p>②芸術学部棟ガス空調機器更新の最終年度として整備を行った。更新に際して、室外機の統合を行うとともに、利用実態に合わせるため、集中管理方式から個別空調方式へと切り替えた。</p> <p>③階段非常用照明を蛍光灯からLED照明へと更新した。</p> <p>④講義棟のプロジェクターやマイクなど講義用機器の更新を行い、利便性の向上や不具合の解消を図った。</p> <p>⑤講堂大ホールのプロジェクターを高輝度で点灯までの時間が短いレーザー光源型のものへと更新し、利便性の向上を図った。</p> <p>⑥「広島市立大学保全計画」の策定に取り組み、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算などを引き続き実施した。</p> <p>○国際学生寮の整備に係る第1期中期計画の変更認可後、設計・施工の発注方法について検討を行うとともに、事業費の抑制と円滑な事業実施を目的に、本学の代行者として設計・施工業者の選定等やスケジュール・コスト・品質管理等を行うコンストラクション・マネジメント（CM）業務の公募型プロポーザルを実施した。受託業者決定後は定期的なミーティングを行い、施設の配置や施設規模、事業予算等の具体的な検討を進めた。また、平成28年3月には、設計・施工の発注に向けて地質調査を開始した。整備費については、広島市との調整の結果、中期目標期間に積み立てた目的積立金全額の次期中期目標期間への繰越しが認められる見通しとなった。</p> <p>以上のように、施設・設備の効率的な維持管理に係る優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>施設及び設備の適切な維持管理について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○健康管理等に関する研修会、職場巡視等を実施した。</p> <p>・定期的に職場巡視を実施し、不用物品の廃棄、整理整頓を徹底し、諸室の効率的利用に努めた。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したと認められる</p>	B
<p>2 安全で良好な教育研究環境の確保</p> <p>学生や教職員の安全衛生管理、人権に関</p>	<p>2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目）</p> <p>(1) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理</p>					

中期目標	中期計画	平成 27 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。</p>	<p>マニュアルを作成する。</p> <p>(2) 安全衛生管理に関する研修等を定期的に実施する。</p> <p>(3) 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。</p> <p>(4) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。</p>	<p>○安全衛生管理研修、職場巡視等の実施</p> <p>○衛生管理者の養成</p> <p>○AEDの増設と救命処置教育の充実</p> <p>○ハラスメントに関する研修等、啓発活動の実施</p>	<p>・ 不用品の廃棄を確実にするため、コンピュータ関係、什器関係と、廃棄物の種類に応じたスケジュールを作成して実施した。</p> <p>・ 3月に健康管理等に関する講演会を開催した。</p> <p>○衛生管理者の増員に向けた取組として、衛生委員会からの推薦者1名が衛生管理者試験を受験し、第一種衛生管理者資格を取得した。</p> <p>○トラック・フィールドと学生寮の2箇所にAEDを設置し、AED設置場所を3箇所から5箇所に増やした。また、「体育実技」と「健康科学」の授業において新入生全員に救急講習を行うとともに、その他の希望する学生及び教職員に対しても各1回講習会を開催し、AEDの使用を含め、適切な救命処置を行うことができるよう知識と技術の習得の促進に努めた。</p> <p>○4月に学生向けチラシの配布（新入生オリエンテーション時、学年別ガイダンス時）を行った。また、教職員向けのハラスメント対応マニュアルを作成し、学内に周知を行うとともに、分かりやすいチラシを作成・配布した。</p> <p>以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>ことから、「B」と評価した。</p>	

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 洽	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	角廣 勲	株式会社広島銀行会長	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	